

立冬

冬が来る 冬のおしらせだ

昔も冬寒かつたのだからか こたつとやかん

を思ひ去す お盆の虫のゆきろさどてつと

石のけいりつじろだろるか 本郷とれたころか

東京に来たころか定てある

もう一つうかぶのは かきもち、おまぢりう

すいものでたまごがたつてりて針金に通して

かわかす、花甲針金のがきもちのた

お餅でやるとひやいと三徳くうりのなるあせ

んべいのうさうだつた やむるうがおもしくく

て味の手付おぼえてりやん

早稲香冬ひときたつた 辰かあま早稲

たつた 両親の仲たすかつた

ズーゾーでのあさりた流たゝ物がたいてり

昔昔昔から早稲卸便の歌が流れる、東海林

大印たい元氣でいさか既がなまゝ

あでた甲国との数筆をいつりたおらんるう

にけぼろまであかつた

父はお座敷で本をよみ、母は手巾物、新は

日なつたほつこ
 今や形をたかつた
 廊下にさしこむ日
 がしほ空を飛ぶため
 いたカリテしかゆれ
 すと日かしくゆれる
 私何故この物にじつ
 と日かしくうける
 あんからハ十年立
 して今も何となく
 立ち上がが早いこと
 今の状態にもどか
 りなるとしみみ思ふ
 時何事かお水か
 今日のまをほハ十年
 前のまうと春いと
 こかたかつてしつた
 冬がむかしをうこ
 ぶもつは春いと

エアコトかある
 空温ニ下四度
 た七か空温
 何する
 とも暖かある
 四季の
 思ふ
 春が手のと
 じかあるところ
 と春つてしつた

立替でなくとも
 立ち替は立ち替
 りすかおつた